

12月5日開催の決算説明会における質疑応答内容を中心に、ご照会の多いご質問への回答を以下の通り掲載させていただきます。

Q 13年度通期でクレジットコスト1兆円を見込むとのことだが、他の金融グループと比較してこの金額をどう見ているのか。

A 他行のポートフォリオの詳細について知り得る立場にないので比較はできない。当行としては、現段階で様々な視点から分析を行った結果、要注意先の将来リスクへの備えとして、直近の貸倒実績、経済情勢を勘案した引当率の引き上げ、および特定業種の集中リスク・再編コストを勘案した引当の積み増しを行うことにより約3500億円、最終処理の前倒しに伴うコストとして約1500億円、個別債務者の財務内容の劣化や担保価値の下落、さらに従来からのペースを前提とした最終処理に伴うコストとして約5000億円、合計1兆円を見込んでいる。

Q リスクに見合った貸出金利を取っていくとのことだが、健全な貸出先に対しては銀行間の競争が激しいと思うが、どう対処していくのか。

A 信用力の高い企業への貸出は、資金需要のない中では競争が激しく難しいと思うが、リスクに見合ったリターンを確実に取っていくということをしなければ、邦銀の再生にはつながらないと思う。このことが貸出残高の減少につながるようになるかもしれないが、全体でみれば収益的にはプラスと考えている。

Q 資本政策について、優先出資証券の発行などを予定しているのか。

A 資本政策については常に考えているが、14/3末のBIS比率は10.7%程度となる見込であり、現状、優先出資証券を今すぐ発行する計画はない。

Q 海外のリストラの進捗状況はどうなっているのか。

A 海外のリストラは統合発表後順調に進んできている。店舗統合はほぼ終わっており、店舗統合に伴うローカル・派遣職員の削減も進んでいる。特に海外の基幹系システムは、4月1日の統合時に一本化している。

Q ペイオフを控えて個人預金の流入が加速すると思うが、運用・調達をどのようにコントロールしていくのか。

A 今年度は、定期預金ではなく流動性預金が増えるとみているが、マーケットからの調達ポジションの改善に資すると考えている。

- Q JGBポートフォリオの13/9末のデュレーションは。
- A 13/9末のJGB全体のデュレーションは2.7年。TB/FBが大きく減少したのでデュレーションは13/3末対比多少長くなっているが、中・長期のJGBポートフォリオでみれば短期化されている。
- Q 保有株式を3年間で1.5兆円削減するというペースは緩やかに思うが、どう考えているのか。
- A 株価変動リスクの削減は極めて重要な経営課題。緩やかに売却していくという考えは毛頭なく、極力前倒しで売却していく。そのために、現在、持ち合い解消に向けて企業の了解をとりつけるべく動いており、相当進捗している。売却はマーケットの状況にもよるが、極力2年程度で目標を達成したいと考えている。
- Q 貸出慣行・形態を見直すとのことだが、住友グループ、三井グループといったリレーションシップをベースとしたグループ系列企業との取引においても見直しは可能なのか。
- A 銀行と企業との関係はここ10年で大きく変質している。主力先企業、グループ・系列企業の取引についても、まずプロダクツやサービスの内容によって当行の起用が決まるようになってきている。従って銀行もプロダクト本位の関係を念頭において貸出を考えていくべきだと思う。その上でリレーションがあるということになる。

以 上